

第7回生駒市総合計画審議会（全体会）

開催日時 平成30年11月27（火）13時30分～14時40分

開催場所 生駒市役所4階 401・402会議室

出席者

（委員）中川会長、久会長代理、高取委員、森岡委員、福谷委員、中谷委員、
谷中委員、藤尾委員、中山委員、村上委員、吉田委員

（事務局）増田市長公室長、坂谷秘書企画課長、岡村秘書企画課課長補佐、
日高秘書企画課主幹、片山秘書企画課員、市川いこまの魅力創造課長、
南口財政経営課課長

欠席者 楠下委員

議事内容

1 開会

2 案件

- （1）基本構想（案）について
- （2）第1期基本計画（案）について
- （3）パブリックコメントについて
- （4）総合計画進行管理検証報告書について

3 閉会

以下、発言要旨

1 開会

【事務局】 ただいまから「第7回生駒市総合計画審議会」を開催します。

【事務局】 （資料確認）

2 案件

(1) 基本構想(案)について

(2) 第1期基本計画(案)について

【中川会長】 案件1番目の「基本構想(案)について」と、案件2番目の「第1期基本計画(案)について」を一括して事務局から説明を願います。

【事務局】 (資料1、2-1について説明)

【森岡委員】 資料1の6ページに「往馬大社、長弓寺、宝山寺、高山茶釜など、古くから伝わる」が追加されたが、「その際」があることにより、つながりが変わり、学研都市の開発が往馬大社、長弓寺、宝山寺、高山茶釜などの交流が期待されるように間違っ て解釈されかねない。正しくは将来都市像の前半部分で謳っていることを、学研都市と歴史文化資源につなげることである。「その際」を省いてほしい。

【事務局】 事務局案としては、ご意見のように古くから伝わる多くの歴史文化資源も交流のきっかけになるだろうという意味で追記した。

【中川会長】 「その際」は削除することとする。

【谷中委員】 資料1の4ページの点線内の2行目の「目標とする目指す姿」は、重複した表現なので、「目標とする」はないほうがよい。

【事務局】 本来は、目標とする「5年後のまち」だが、ここで5年後のまちと記載できないため「目指す姿」とした。

【中川会長】 「行政分野ごとの目指す姿」に変更することとする。基本構想(案)と第1期基本計画(案)は、ただ今の2点の修正を行って原案とする。続いて、第1期基本計画(案)の各論について事務局から説明願います。

【事務局】 (資料2-2、2-3について説明)

【中川会長】 先日開催された議会の特別委員会で100件以上の意見が出された。われわれが気づかなかったことがかなりあった。分野別と分野共通の意見に対し、約140件の変更を施している。言い回しや文言変更などの軽微な変更が約240件あり、総数で約380件の変更になっている。

【中谷委員】 6-1-3財政経営の行政の5年間の主な取組の「①7 ふるさと納税をより積極的に活用し、寄付金の増加に努めます」の「寄付金」は、市で使う場合、「寄附金」である。

【中川会長】 「寄附金」に統一してほしい。

【中谷委員】 5-3-1 農業の行政の5年間の主な取組の、「③5 市独自の特産品づくりの取組を支援します」は、農家に特産品を考えてもらい、それに対して市が支援するという解釈でよいか。

【事務局】 「取組を支援します」は、特産品の開発段階から協働する意図である。

【中谷委員】 農業では農地を守ることも必要なため、資料2-1の18ページに、「農地の有する多面的機能を発揮」を追加してもらったが、各論では多面的機能に触れていない。「農地保全」または「農地活用」に、農地を農業生産以外にも活用することを明示したほうがよい。

【久会長代理】 その点は、4-4-1 緑環境・公園の現状と課題の最後の「都市緑地法の改正による、都市農地の緑地への位置付け」を受けた内容である。農地を都市緑地として位置付けることは、ここ数年の法改正の中でも大きなものであり、緑の基本計画にも反映されるため、4-4-1 緑環境・公園で受けた方がよい。

【中谷委員】 市街化農地はそれに沿った形でよいが、調整農地はなかなかこの法律に引っかからない。多面的機能を果たすのは市街化農地より、山間地にある調整農地のほうが多く、保水や洪水を防ぐ機能だと思う。

【中川会長】 この場で結論を出すのは難しいため、持ち帰って検討したい。

【森岡委員】 2-2-1 学校教育の具体的な事業に、国や県が行う「①1 スクールボランティアの活用、学びのサポーター派遣事業」と、生駒市独自の「①8 地域ぐるみの児童生徒健全育成事業の推進」が並列に書かれているが、表現を合体させて、一緒に取組を進めるべきである。スクールボランティアは、個人単位で活動するため、なかなか地域に入っていけないと聞く。地域ぐるみの児童生徒健全育成事業は、全国的に見ると生駒市だけだが、地域ぐるみで民生委員や自治会なども入っている。せっかくよいものがあるのに、別物のようになっていて、①8だけが浮いてしまっている。

【中川会長】 国や県が制度化している事業と、従来から生駒市独自で行っている事業が交差して重複しているのではという指摘である。融合して、地域ぐるみの児童生徒健全育成事業に、スクールボランティアがどのように関わっているかが分かるような記載にしてはどうか。

【事務局】 地域ぐるみの児童生徒健全育成事業は中学校区単位の活動で、学校外にいる児童生徒も対象にすることがスタートだった。スクールボランティアは学校内の活動を行う。両者が徐々に融合してきており、現場では指摘のような問題意識をもっているが、どこまで総合計画に書き込むかが悩ましい。

【中川会長】 これは担当課の意向なので、われわれが表現を変えるようにとは言いにくい。森岡委員の指摘は、地域と学校のつながりや分担が見えにくくなっていることへの警鐘のため、その旨を担当課に伝えてほしい。

【久会長代理】 ここにコミュニティ・スクール化や学校運営協議会のことが全く出ていないが、今後の5年を考えると、そのような全体をマネジメントするところがないと難しい。本来は学校運営も一緒にやるのが理想であり、そこに向かって走ってほしい。

【中川会長】 同感である。小学校区ベースの地域自治協議会の完成のためには、もっと小学校と地域の深い関係が必要で、それに向けた学校の体制整備が問われる。国や県の制度に乗った仕事に流れ過ぎている。これについては議論が長引くので、意見があったことを担当課に伝えてほしい。

【福谷委員】 各担当課が時間をかけて各論を作ったことは素晴らしいが、各担当課が5年後に目指していることを全員が共有できているかという疑問がある。上の職員で一生懸命やっても、部下がそのような動きを知らなければ皆が一丸となってやっていくことができない。話を聞いていて、部下まで話が行き渡っていないこともあると思ったため、5年後に目指すことを皆で共有したほうがよいと思う。

(3) パブリックコメントについて

【中川会長】 案件の3番目「パブリックコメントについて」、事務局から説明願います。

【事務局】 (資料3-1、3-2、3-3について説明)

【中川会長】 特に意見がないため、本日の資料をもとにパブリックコメントを行う。

(4) 総合計画進行管理検証報告書について

- 【中川会長】 総合計画進行管理検証報告書について事務局から説明願います。
- 【事務局】 (資料4-2について説明)
- 【中川会長】 特に意見がないため、各部会長に助言等を聞きたい。
- 【高取委員】 特にない。
- 【久会長代理】 先ほどの説明で足踏みと言われたが、足踏みと言うより、「そこそこのレベルまで来て、進捗が止まっている」と理解している。また、PDCAが上手く回っていない書きぶりが散見される。もう一段階ギアチェンジが必要である。今年度の評価の際には、すべての部署、すべての職員がチェックをきちんと行い、問題点の改善に向けたアクションを意識して、次のステージに上がれるようにしてほしい。
- 【吉田委員】 211母子保健についてだが、子育てをしている人にパパママ教室が大変好評なため、このまま続けてほしい。
- 【中川会長】 事務局から担当に伝えてほしい。皆様に頑張ってもらったことに感謝する。先ほどの森岡委員の指摘に同感の点がいくつかある。第6次生駒市総合計画は、団体自治中心の総合計画から、住民自治と対等に向き合う総合計画に随分踏み込んできた。そのような意味で、市民、事業者、NPOのそれぞれができることを挙げている。実は第5次生駒市総合計画もそうだったが、行政の仕事の出し方が縦割りで、部署の仕事の壁を強く意識していると感じている。小学校区ベースの住民自治について、生駒市はスタートは早かったが、市民自治協議会の結成については支援が行き届いていない。それが学校の取組の書き方に表れていて、地域と連携する意識をあまりもっていないように思える。学校だけでなく、消防、保健、包括支援もすべてそうである。行政側の仕事を柱書きするときに、「今後地域とはこのようなことで連携したいので、このようなことを地域にお願いしたい」というようにすれば、行政の仕事の組み立て自体も変わる。それが見えていないが、致命的なものではないため要望に留める。
- 【久会長代理】 地域は総合的に様々なものを受け取っているため、行政側に、縦割りを超えた総合的な地域との協働が望まれる。市役所の職員が個別に地域に入るのではなく、パッケージとして一斉に同時に地域の方々と組んで

いく体制づくりをしてほしい。地域協働は行政の鏡のようなもので、行政が縦割りだと地域も縦割りになる。まず行政がスクラムを組んで地域とパートナーシップを結べば、自ずと地域にも横連携ができる。行政内のスクラムがもっとあればよいと思う。

【中川会長】 総合計画の進行管理（平成29年度）は、事務局案のとおりとし、この検証報告書を本審議会として答申する。本日の会議の案件は終了した。ほかに事務局から連絡はあるか。

【事務局】 （事務連絡）

【中川会長】 これをもって第7回生駒市総合計画審議会を終了します。

— 了 —